

第1回学びが喜び・ESD 連続公開講座

大西 浩明

- ◇日時 2022年5月17日(火) 19時~20時30分
- ◇方法 対面式とビデオ会議システム Zoom を使ったオンライン形式を併用したハイブリッド
- ◇会場 ESD・SDGs センター多目的ホール
- ◇参加者 対面 17名、オンライン 45名 計 62名

「ESD for SDGs への誘(いざない) ~持続可能な未来を創る学びとは?~」

奈良教育大学 ESD・SDGs センター准教授 及川 幸彦氏

はじめに：持続可能な社会を創る学びとは? (by ユネスコ)

- ① 知ることを学ぶ learning to know
知識の獲得の手段そのものを習得すること
- ② 為すことを学ぶ learning to do
専門化した職業教育ではなく、様々実用的能力を身につけること
- ③ ともに生きることを学ぶ learning to live together
他者を発見、理解し、共通目標のための共同作業に取り組むこと
- ④ 人間として生きることを学ぶ learning to be
個人の全き完成を目指すこと
- ⑤ 自分と社会を変えることを学ぶ learning to transform oneself and society
新しい価値を獲得し、コミュニティや社会に永続的に変化を生み出す



教員は希望を語るべき・・・だが、

「希望を語れる」現状ではない 持続不可能な社会

教員の責務は、子どもを守ること 今のままでは子どもの未来を守れない

持続不可能な地球・世界

- ・ 気候変動(温暖化)とその予測
「人間の仕業に間違いはない!」
今後何の対策も取らないと、2100年には気温が最大4.8°C上昇
これでは済まない可能性が・・・
今、世界は1.5°C上昇に抑えようとしているが、
永久凍土が溶け出すとメタンガスが大量に噴出される 温室効果がさらにひどくなる
- ・ 度重なる自然災害(多発化、激甚化、広域化)
「災害列島日本」
今まで起こらなかったような地域でも、当たり前のように災害発生
- ・ 環境問題(海洋プラスチック問題)
2050年には海の魚の量を超える?
海があるかないかの問題ではなく、すべての地域でやるべき

奈良のように海がない地域こそ 　　ごみを出さないようにすること

ごみを出すのは、内陸！外国！ 　　だから内陸でこそ、この問題を見つめるべき

・世界の紛争や暴力の中での子供たち

差別や貧困の中で一番被害を受けるのは、社会的弱者（子供、女性、高齢者）

年間 520 万人の子どもたちが 5 歳前に死亡（6 秒に 1 人）

・相対的貧困率の国際比較と年次推移

子どもたち 7 人に 1 人、一人親では 2 人に 1 人が貧困状況

世界的に見てもかなり貧困が進んでいる 　　「ヤングケアラー」の問題も

貧困の連鎖 　（親の経済的貧困→教育格差→低キャリア→社会的格差）

これが次の世代に連鎖する 　　貧困の連鎖と再生産

貧困の連鎖を断ち切る SDGs 　　「包摂的な社会」の実現 　→ 　ESD の原理・原則

・ジェンダーの格差

日本のジェンダー格差は 120/156 位で、先進国で最低レベル 　　特に政治分野で低い

男性であろうが、女性であろうが、適材適所であるべき

・いじめと児童虐待

児童虐待相談件数は年々増加 　　身体的虐待とともに心理的虐待が増加

SDGs がめざす世界

No one will be left behind 「誰も置き去りにしない」

それぞれにミッションを持たせるのが教育という見方も

そのミッションは時間とともに変わっていったいい

教育は「不易と流行」 　　ESD は「不易」（流行ではない）

テーマは何でもいい 　　目指すところは持続可能な社会の構築に変わらない

SDG4 だけをやればいいというわけではない

ESD とは……様々な問題を自らの問題として主体的に捉え、

身近なところから取り組み、

新たな価値観や行動等の変容をもたらし、

持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動。

ESD の実践を通して、

習得された知識、技能、価値観を行動変容に生かすことが、

持続可能な社会を実現するための目標である SDGs の達成につながる。

ESD の教育的価値：2つの側面

①ESD に取り組むことによって「教育の質が向上する」

→ ESD の「E=教育」を重視する視点

②「教育が持続可能な社会づくりに貢献する」

→ 「SD=持続可能な社会の創造」を強調する視点

この両輪の連結こそが ESD を特徴づけるものであり、ESD、すなわち「持続可能な社会を創る教育」の価値を示すもの

ESD と他の教育との違い 「〇〇教育」とよばれる他の教育はその内容を学ぶ
ESD は、「for」が重要 持続可能な開発の「ための」教育 根本的に違う

これからの ESD の方向性：ESD for SDGs

最低限 SDGs を達成しなければ！

SDGs への多角的・連環的アプローチ

一つの目標にとどまらない 様々な目標と自然につながるはず
つなげて考える トータルに考えることが大事

学習指導要領に ESD の理念が入る → 学校教育の本丸になった（20 年かかったが）

「生きて働く知識・技能」「未知な状況にも対応できる思考力・判断力・表現力」

「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等」

これは ESD そのもの

知識・技能…「ESD 的知識・技能」

思考力・判断力・表現力…「ESD 的探究・問題解決」

学びに向かう力…「ESD 的価値観と行動」

探究的な学びを紡ぐ：ESD のストーリー化と構造化

- ・気仙沼市 「環境未来都市プロジェクト」 東日本大震災の教訓を生かした ESD
- ・竹富町 地域の豊かな自然を生かした ESD 地域の伝統文化を生かした ESD
- ・只見町 森・川・海をつないだ ESD
- ・大牟田市 SDGs 達成を目指した ESD

【質疑応答から】

Q：昨年一年間、大学の支援を受けて防災の取組を行ったが、SD ばかりで参加者が固定され、なかなか広がっていかない。何かアドバイスがあれば。

A：防災は一方通行ではだめ。支援を通して何を感じ、何を学んだかが大事。それを発信することで、共感した人が活動に参加するのでは。ボランティアは双方向であるべき。

復興ボランティアに行くユースに交通費を出そうというのは、ボランティアを通して得る大きな学びがあるからだと思っている。

